

## 東日本大震災モニユメント建立募金趣意書

東北地方太平洋沖地震の発生から一年になるうとしていますが、被害についてはまだまだ生々しい記憶となつて思い出されます。一方で、復旧・復興も進められています。石巻市の震災復興計画によると、本校の周辺は住宅地として開発されます。石巻合同庁舎の移転の計画もあります。東松島市も同様の計画を検討しています。

そうした中で、私たちが為すべきことは、

「記憶すること。忘れないこと。伝えること。」

です。当時本校に在った者の責任として、私たちは東日本大震災の事実を語り伝え、次の世代に警告を發し続けなければなりません。しかし、学校は、生徒が三年で去り、教員も代わっていきます。この地に津波が到達した事実と、その時果たした本校の役割を伝える者は、やがていなくなります。震災の記憶が途絶え、それとともに災害に対して無防備になることを恐れます。

このモニユメントは、東日本大震災の事実と被害を伝えることを目的として建立されるものです。一般の方が校門の外からでも目に留まる場所に建立します。私たちに代わって永く記憶を伝える役目を果たすものです。

以上の趣旨にご賛同の上、建立資金の募金にご協力をお願いいたします。

二〇〇四年十二月二十六日スマトラ島沖地震が発生し、スリランカも大津波に襲われ、甚大な被害を蒙りました。その時の日本からの支援を忘れなかったスリランカの人々が、この趣旨に賛同して義援金を送って下さいました。日本円で総額百五十万円余り。いまだ災害の傷の癒えない国より支援を受けて、モニユメントを建てることに忸怩たる思いがあります。しかしながら、国際理解を推進、理解から交流、そして共生へと進めている本校にとってふさわしいことであり、これを機会に交流を深める緒としたいと願ひ、喜んでお受けし、建立資金に充てさせていただきます。

宮城県石巻西高等学校長 奥山 恒義